

- 立科小学校/午前9時～午前11時30分
電話 56-3131(呼)・有線2190(呼)
- 立科中学校/午後2時～午後5時
電話 56-1076(呼)・有線2251(呼)
- 立科町児童館/
午前 11時40分～午後1時30分
電話 56-0303(直通)
有線 8889(直通)

※予約をされる方は児童館または小・中学校の
教頭先生へご連絡をお願いします。

蓼高生の爽やかさ、頼もしさ、 そして、大変さ ～蓼科高校を訪問して感じたこと、 考えさせられたこと～

立科町教育相談員 岩上起美男

歴史的な豪雪を記録した今年の2月14日、蓼科高校体育館の扁額「蓼科学校」の写真撮影(「広報たてしな4月号」掲載)に同行しました。

その折に、蓼高生のひたむきな姿に嬉しい驚きを覚え、以前、たまたま見かけたごく一部の蓼高生の、ワイシャツの胸元をただけ、裾をなびかせて道路を歩く姿や「風の子広場」の四阿で飲食する様子、また、相次いで報道される高校生の痛ましい事件などから、心のどこかで「今どきの高校生は……。」と嘆いていた自分を、非常に恥ずかしく思いました。蓼高生一人一人の頑張りや誠実さ、爽やかさ、優しさ、明るさ、悩みなどに向き合いもせず、一つ二つの現象だけで全体を評価していたのです。

蓼科高校を訪れたとき、体育館では、生徒会長の指揮と生徒会役員の指導の下、一年生が合唱の練習をしていました。

体育館内に、「児童期・少年期の小学生」や「青年前期にある中学生」の声質とは明らかに異なる、朗々とした深みのある男声と澄んだ美しい女声が響き合っていました。

しばらくして、生徒会役員の、「声が出していない! もっと出るでしょう!」という凛とした声がフロアを包み込みました。二年生が一年生を毅然と注意する声に、

座禅の警策を右肩にピシッとたたいたような気がしました。と同時に、体育館内が静まり返りました。

しわぶき一つ聞かえないその静寂が、跳躍直前の深く、力強い沈み込みであつたかのように、歌声がさらに変化しました。声量が一段と高まり、青年期にある高校生の気持ちのこもった素晴らしい合唱が体育館に響き渡ったのです。

合唱練習の終了直後、生徒会長と生徒会役員に、「一生懸命、合唱練習をしていたのに、練習の邪魔をして悪かったね。やりにくかったでしょう。すみませんでした。」と、同じフロアで写真撮影をしたり、ひそひそと打ち合わせをしたりしていたことを謝りました。

すると、思いもかけぬ嬉しい言葉と笑顔が返ってきました。

「いいえ、大丈夫です。かえって、お見苦しいところをお見せしました。」

「お見苦しい」、このような慎ましく、謙虚な言葉を耳にしたのは、一体いつの日のことか……。世知辛い世の中、果たして、このような言葉を飾ることなく、自然に、にこやかに言える大人がいるのだろうか……。

蓼高生の素晴らしい合唱と生徒会役員の爽やかな姿が、降りしきる大雪の鬱陶しさを吹き払い、帰りがけの、車体の雪

と地面の雪がつながるほど降り積もってゆく雪を下ろす作業もまったく苦になりませんでした。

あの豪雪の日以来、蓼高生及び高校生の頑張りや大変さを知らずに、心の中で「今どきの高校生は……。」と嘆いていたことをお詫びしたい気持ちと、もっと現代の高校生の内面を知りたい、という思いを抱いていました。

そこで、蓼科高校の金原正校長先生にその思いをお伝えしますと、すぐに生徒会役員との懇談の場を設けてくださいました。

その7月11日の放課後、再び、豪雪のバレンタイン・デーのような爽やかな感動を体験しました。

4人の生徒会役員及び生徒会顧問のA先生との懇談は、老生にとって本当に有意義な一時だったのです。

そのすべてをお伝えすることができないのはまことに残念ですが、懇談を通して、次のようなことを感じ、そして、考えさせられました。

もとより蓼高訪問によって老生が見聞したことは、ごくごくわずかな一面ですが、日頃、なかなか知ることのできない蓼高生及び高校生の頑張りや爽やかさ、大変さを、立科町の皆様に少しでもご理解いただければ、幸いに存じます。